

道德は自分の心と対話する時間・・・

道德の授業では、まず教材と出逢い、その時思ったこと、みんなで考えたことなど出し合いながら、子どもたちの心の動きを大切に授業実践に努めています。道德の授業に正解はありません。一人一人の考えをジャッジすることはありません。互いに考えを話し合う中で、自分自身が「今まで〇〇と思っていたけど、△△もあるなあ。」「〇〇と思っていたけど本当に〇〇は大切だ」と新たな考えに気付いたり、より深く納得したりして自分なりの納得解を考えていく心の教育です。今、子どもたちは道德の授業で互いに学び合っています。

道德の授業参観から NO.1

8日(水)の授業参観では、道德の授業を実施した学年が3学年あります。その授業の様子を2回に分けて紹介します。

第3学年「お母さんの請求書」～家族で協力しあうこと～

主人公のだいすけが、家の手伝いをしたことでお母さんに400円の請求書を渡します。お母さんは、お金と共に、だいすけへの請求書(病気の看病、食事を作るなど)0円を渡します。その請求書を見てだいすけは、自分をみつめ、涙ぐむという内容です。3年生の子どもたちは、とても真剣に考えていました。「〇〇さんとなっていて」、「〇〇さんと違って」と友達の意見と比べながら考えを深めていきました。

最後には、「これから、家族のためにできることをしたい」「いつもありがとう」など、家族の一員としての自覚も高まっていました。



第4学年「ヒキガエルとロバ」～すべての命を大切に～

学校帰りの子どもたちが、ヒキガエルを見つけました。子どもたちは、小石を投げるなどいじわるをして楽しんでいました。そこに、荷車を引いたロバが通りかかりました。子どもたちは、もっと面白くなると楽しみにしていました。しかしロバはヒキガエルに気付き、ケガをしたヒキガエルにやさしく息を吹きかけ通り過ぎていきます。その様子を見た子どもたちは自分たちのしていたことを反省するという内容です。

4年生の子どもたちもロバの姿から、「命を大切にしないといけない」「ロバみたいになりたい」など、たくさんの考えを発表していました。命の大切さについて改めて考え合う授業になりました。



保護者の方のアンケートにも、道德の授業について書いていただいています。そのいくつかを紹介합니다。

*道德の授業というのは、登場人物や相手の気持ちなどを考えて、自分でどのように感じたのか、自分を見つめ直す機会になります。他教科とは異なる部分があり、難しいと思いますが、子どもたちは、それぞれ一生懸命、自分なりの考えを発表できており、感心しました。

*道德の授業でしたが、自分の考えや思ったことをしっかりまとめたり、発表したりすることができていました。全員が発表できればいいなあと思いました。

*道德の授業で、話を聞く姿勢や班で話し合う時間、考える時間等、とても良かったと思います。とても落ち着いていました。

次号では、5年生の授業参観の様子を紹介します。